

ちばさぽの事業紹介

市民団体×行政の意見交換会

千葉氏や大賀ハス、加曾利貝塚など「千葉市の都市アイデンティティ」をテーマに、千葉市政策調整課都市アイデンティティ推進室の方を交えて、ざっくばらんに意見交換します。

日 時 ▶ 2016年3月9日(水) 18:30~20:30

会 場 ▶ 千葉市民活動支援センター会議室

対 象 ▶ NPO・市民活動団体でこのテーマに関心がある方

定 員 ▶ 10団体(お申込み先着順、1団体2名まで)

参加費 ▶ 無料

税理士専門講座「ここがポイント 非営利団体の会計」

市民公益活動団体の決算をアドバイスする講座です。

日 時 ▶ 2016年3月17日(木) 18:30~20:30

会 場 ▶ 千葉市民活動支援センター会議室

講 師 ▶ 加藤 達郎 氏(加藤達郎税理士事務所 代表)

対 象 ▶ NPO・市民活動団体の税務会計担当者、その他
内容に関心のある方であればどなたでも

定 員 ▶ 24名(申込み先着順、定員になり次第締切)

参加費 ▶ 無料

【お申込み方法】(上記いずれも)

千葉市民活動支援センターまで、メール、FAX、TEL、来所にて、
以下の項目をお知らせください。

- ①参加を希望する講座等の名称・日時、②お名前、③ご住所(市区町村名まで可)、④連絡先(電話またはメール)、⑤所属団体



ミニコラム

ちばさぽの風 vol.12

センターでは今年度、「市民団体×媒体の意見交換会」(以下、会と略)や「IT活用講座」といった、情報発信をテーマとした講座等を開催してきたが、会に出席した媒体(メディア)や市民団体の方からは、多くの示唆に富んだ発言をいただいた。ここで会を簡単に振り返りつつ、市民団体の情報発信のあり方などについて私見を述べてみたい。

まず当たり前のことであるが、新聞やテレビなどのメディアは、購読料や広告料などで成り立っている商売であるということを認識した。プレスリリースのFAXは毎日山のように届くそうで、「よいことをやっている」という情熱だけでメディアがとり上げてくれるはずもなく、文書にはわかりやすい見出しがつけ、簡潔な量(A4一枚以内)にまとめることが必須であると教えられた。

また、初めての取組や時節・時流に合った活動は、単なるイベント紹介でなく、記事としてとり上げられる可能性もあるとのこと。加えて、顔の見える関係をつくることも不可欠で、たとえ嫌がられたとしても(!)、いくつかのメディアには直接足を運んだり、電話をかけたりすることも厭わずに行うのがよいとわかった。

他に、「知っている市民団体は少ないがおもしろい活動だと思う」「千葉を好きだという人を増やしていきたい」と

今年の風 来年の風

■今年の風 ちばさぽセミナー、盛況でした!

平成27年度は6団体の講座と4団体の相談が実施されています。すでに終了したものあり、3月まで進行中のものもあります。内容は「骨盤・背骨の歪みと病気について」「森で楽しく健康セミナー」「話の聴き方を磨く(傾聴技法)」など、環境、学芸、参画、福祉など多岐にわたっています。▼センターが広報支援をするということで、単独でやるよりも参加者は増えているようです。「センターでやってよかった」というお声もいただきました。▼講座をしていただくことで、利用者も増え、周知もできるところから、まさに“一挙両得”的の「ちばさぽセミナー」です。すでに新年度実施分の募集を開始しています。受付は随時です。所定の申込書がありますので、お問合せください。

■来年の風 学校との連携をひろげる! 魅力ある千葉をめざして

市民団体に「インターンシップ受入れ」の登録を呼びかけています。また、千葉大や千葉経済大学に市民団体と一緒に「ボランティアズキャラバン」を毎年行っています。「ボランティアズキャラバン」とは、市民活動の実際を知ってもらい、ボランティアや市民活動に興味をもってもらおうという企画です。▼来期は、大学だけでなく高校や中学にでかけられないか、考慮中。団体さんで近隣の高校、中学を紹介できる方はお教え下さい。高校は、市民団体と一緒にでかけ、プレゼンと交流。中学は、市民団体が学校へ出前講座をできないか検討中です。▼「千葉市を元気にするミニ・シンポジウム」は、2020年のオリンピック・パラリンピックに向けて「魅力ある千葉」のまちづくりに市民や市民団体がどうかかわるか、ワイワイ話せるシンポを企画しています。

「情報発信、メディアと協働へ」

といったコメントが、メディア側から出されたことは印象に残った。市民活動に関する情報は、間違いなく求められているといえよう。一方で市民団体側からは、「周知の対象によってはメディアに頼らず、チラシのポスティングなどに力を入れている」といった発言もあり、参加者は頷きながら聞いていた。

会を通じて、センターに情報発信の支援が期待されていることはもちろんだが、個々の団体の情報をバラバラに扱うのではなく、一元的に発信をする(そうすることで情報収集もしやすくなる)、そんな仕組みが必要ではないかと感じた。市民団体がこうした情報発信・収集を、メディアと協働して“事業”として取り組むのもおもしろいかもしれない。ただこうした事業を回すには、今以上に千葉市の市民活動を活性化させ、「情報がほしい」と思う人を増やすことが前提になるだろう。個々の団体の支援はもちろん、団体どうしのつながりづくりなど“市民活動社会”全体の支援をし、底上げをしていくことも、センターが果たすべき重要な役割なのだと強く感じた。(原)

